

Data set-4/#3

さくら通りが終わって、大通り(外堀通)を渡る前の信号待ち地点。路上の塗装パターンが利用されているが、長期的視点で考えると、これらの路上の塗装パターンはそのうちに経年変化を起し利用できなくなると考えられる。



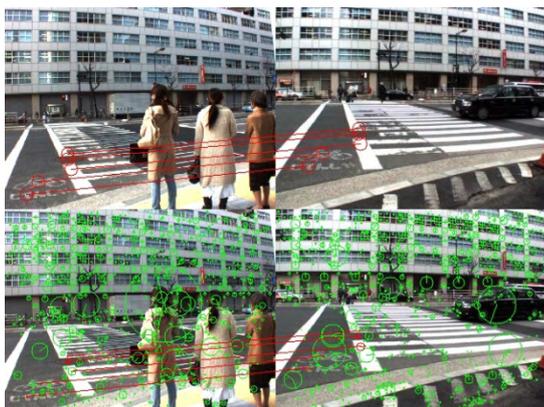
Data set-4/#4

外堀通を渡り終えたところ。ポスターのようなコントラストのはっきりした画像領域は SIFT キーとして抽出されやすい。



Data set-4/#4

同じく外堀通を渡る前の信号待ち地点。



Data set-5/#1

中央通り上で、位置は正しいものの、画像照合として厳密には不正解としてもよい例。一見すると右奥の建物の窓の SIFT キー同士正しく対応付けられているようにも見えるが、よく観察すると、入力画像と参照画像候補で異なる窓に対応付けされている。本実験で構成している参照画像集合中にはこのような作りの窓を持つ建物が他に存在しないため位置推定結果はほぼ正しく行えているが、現実空間の同一物同士を対応付けて正しい対応を得るというアルゴリズムから見れば、正解ではない。(位置が正しいため、実験では正答と計上)



Data set-5/#2

さくら通り上での路面パターンで照合できた



例。

Data set-5/#3

さくら通り上中央付近での信号待ち地点。



Data set-6/#1

地下街を出てすぐの中央通り上。特徴的な壁の様子が利用されている。これも厳密には正しい位置に対して多少対応関係がずれているが、このようなパターンの壁が他にないため、推定結果としては正解となる。

